

エアープランツ

第三次マージャンブームの到来とか。高齢者の間で、頭の体操、指の運動をとまなう健康的娯楽が支持され、静かに流行しているのだ。『エアープランツ』もそんなグループ。週1回、コミュニティセンター湘南で元気よくリーチ、ロン!

ルーツは市営温水プール

萩園にある茅ヶ崎市屋内温水プールに通っていた田波浪枝さんは、仲間の林裕子さんにささやいた。「老後の楽しみに何かやらない。あなた、マージャンできるわよね」。話はパツと広がり10人以上が賛同。2011年、湘南にエアープランツが誕生した。

あれから11年、毎週水曜日午後になるとマージャン道具を抱えた一団がコミセン湘南に集まる。パイに触ったこともなかった面々が、今では喜々としてジャン卓を囲む。ずっと指南役を務めてきた林さんは言う。「ルールを覚えるまでに1年かかったかしら。頭で考え、手先を動かす。会場に足を運ぶことだって運動。お年寄りにはすべて大切なんです」

“3ない”で脱ギャンブル

エアープランツのコンセプトは健康マージャン。「お金を賭けない、酒を飲まない、タバコを吸わない。厳守です」。同クラブ代表でもある田波さんは胸を張る。

現在のメンバーは11人で、男性は仙倉秀果さんと児山昭広さん。仙倉さんは75歳のときに入会した。父親から「賭け事は絶対ダメ」とクギをさされ趣味はゴルフ一筋だったが、足腰が弱くなった



④仙倉さんは、75の手習い、⑤④点数もきっちり計算
⑥⑦2020年夏のコロナ対策



コロナ禍でも奮闘

リーチロン

健康マージャン



対戦相手はクジ引きで決定

◆マージャン人気上昇 コミセン湘南ではエアープランツの他に4つのグループがマージャンを楽しんでいる。高齢男性による「小鳥の会」は5年前、高校の同級生4人で始めた。途中で1人が亡くなったため、3人マージャンで続行。5グループとも会員募集はしていない。

→らプレーできない。

「ボケ防止のために」とマージャンを始めたところ「いやー、こんなに面白いとは思わなかった」と完全にハマってしまった仙倉さん。週に一度のコミセン湘南での戦いが待ち遠しい。

長〜く元気に楽しく



会場準備もみんなで

2020年から現在も続いているコロナ禍にも、エアープランツはひるまない。3カ月休んだコミセン湘南が再開したときにはすぐさま活動開始。フェースシールドをかぶった完全武装でマージャンを打つ姿は、新型コロナに戦いを挑んでいるかのようだった。

メンバー最年長は85歳の野口昭美さん。取材当日、倍満を上がり勝負師ぶりを発揮したが、マージャン以外にも絵を描き、コーラスで歌っているスーパーおばあちゃん。「私たち、野口さんが目標なんです」と田波さん。エアープランツは常に前向きだ。

★トピックスは裏面

湘南トピックス

「湘南地区まちぢから協議会」ホームページからコミュニティセンター湘南の情報が見られます。「部会」→「コミセン部会」で見ることができます。



歩いて見て実感！中島の歴史

【3月9日 地域の歴史を知ろう】コミセン湘南自主講座「郷土中島の歴史をまなぶ」シリーズ最終回は、日枝神社をスタートに殿屋敷跡、イカダマ（筏間）跡、なんどき橋跡、ポンプ場、馬入の渡し場跡、左近右近稻荷社、浄林寺など14箇所を約2時間かけて回った。現地探訪には37人、地元・中島以外からの参加者も多数。茅ヶ崎郷土会の平野会長の説明に耳を傾け目を凝らした。3回の講座を終えた平野さんは「毎回とても熱心に聞いていただき、皆さんの郷土に対する関心の高さに驚きました。チャンスがあれば、またお話ししたい」。地域の歴史への再登板に期待だ。

好評「コミセン湘南カラオケ」

【4月6日 中島カラオケ同好会】「コロナで中島自治会館での活動を2年間中止、場所を変えて再開することにした」と根岸会長。3月22日にはまん延防止措置が解除、コミセン湘南でのカラオケはこの日が2度目だった。93歳の羽切さんがしぶく「旅姿三人男」を披露すれば、「美川、千昌夫、北島の歌が好き」な小林さんも歌いまくった。女性の東海林さんは本格派。持参ノートには持ち歌100曲以上がビッシリ、カラオケ個人レッスンにも通っていて「とにかく健康にいいわね」。コミセン湘南のカラオケ使用料は1回(1コマ)1,000円、予約が必要。問い合わせは受付へ。



オリジナル音楽劇を掲げて30年

【4月28日 劇団湘南山猫】1992年に旗揚げした湘南地区を中心に活躍している劇団。大人から子どもまで楽しめる音楽劇を茅ヶ崎市民文化会館、市内小学校などで公演してきた。「チームの8人は全員女性、孫のいる人も。演出家などのスタッフは作品に応じて募ります」と座長の米山さん。コミセン湘南で稽古をするようになったのは2017年から。現在は7月24日に行う横浜ラポールシアター主催、宮沢賢治原作「鹿（しし）踊りのはじまり」公演に向け準備、稽古にも熱が入ってきた。作曲を担当している栃内さんは「宮沢作品の魅力を伝えたい」と力を込めた。

フォトクラブ 10周年記念展に力作

【5月10日 CSフォトクラブ】柳島に住む写真仲間で立ち上げた同クラブが10年の節目を迎え、コミセン湘南1階ホールで記念展示会を開催。山口代表は「コロナ禍で以前のような撮影会をやれなくなった。そんな中での10周年記念は、みんなの努力のたまものです」と感慨深げ。この日、山口さんをはじめ、熊谷、立原、北村さんが「四季」をテーマにして撮った作品を持参。湘南海岸の春夏秋冬、箱根・仙石が原の野焼き、馬入川の四季など、4人の自信作16点が並んだ。



パンになったかたつむり

【6月9日 簡単おうちパン教室】関東甲信が梅雨入りした3日後に開かれた教室のメニューは、季節感ぴったりの「かたつむりパン」。「ご飯を炊くように気軽にパン作りを」と呼びかける講師・しみず先生は、生地作りから成形まで分かりやすく説明。ツナとマヨネーズ、チーズを載せて焼くと、かわいい小さなかたつむりが皿に並んだ。コミセン湘南では3回目。この日が初参加で最初は緊張気味だった伊延さんは、スマホ片手にしみず先生に熱心に質問。「家に帰ってさっそく、ひとりで作ってみます」と最後は笑顔をのぞかせた。



【あとがき】「ウイズコロナ」で、コミセン湘南自主事業が徐々に増えてきました。7月にはコミセン朝市、料理講習会。8月になると子どもウクレレ教室など夏休み企画。詳しくは回覧、館内展示などでお知らせします。